

法医看護学における性暴力被害者への看護の役割

国立大学法人滋賀医科大学

実践看護学講座 教授 立岡弓子

性暴力は被害者の心身に深刻かつ長期的な影響を及ぼす重大な社会問題です。統計によると、被害者の平均年齢は15.1歳で、54.1%が重度のPTSD（心的外傷後ストレス障害）の可能性があります。さらに、26%の被害者が「死にたい」と感じ、36.7%が自分を責めるなど、心理的トラウマは長期にわたって持続します。特に懸念されるのは、小学生を含む未成年者が性被害のリスクに晒されていることです。本発表者が2022年に近畿圏内で行った調査では、156件の性被害事件が報告され、多くが中高年の男性加害者によるものでした。

このような現状を受けて、看護師の役割は被害者の身体的・心理的回復において極めて重要であると考えています。性暴力被害者の影響は深刻で複合的に発症し、21.2%が感情の高ぶりに悩み、19.2%がリプロダクティブヘルスに関する不調を経験しています。また、7.1%がたばこやアルコール、薬物の摂取を始め、1.8%が自己免疫性疾患を発症するなど、トラウマが長期的な健康リスクを引き起こしている現状にあります。さらに、被害を開示された親や友人からの心理的二次被害も多く経験しており、被害者への理解と支援体制の改善が急務です。

看護職には、性暴力被害に遭った者に気づく機会が多いことはもちろん、ワンストップセンターを始めとする拠点病院での初期対応において被害者の身体的心理的状况を慎重に評価し、適切な医療的ケアを提供することが求められます。特に、被害者の心理的脆弱性を理解し、非判断的で共感的なアプローチを取ることが重要です。また、医師や臨床心理士、警察官との多職種連携も不可欠であり、心のケアと法的支援を統合的に提供する必要があります。

性暴力被害者支援における看護師の役割は、単なる医療的ケアを超えて、被害者の尊厳と希望の回復に看護力を注ぐことであると思っています。

今回のランチョンセミナーでは、看護学において新しい学問分野として位置づけられている法医看護学を基礎として、被害者への理解と支援方略を進めていく必要性、さらにSANE（性暴力被害者支援看護職）の存在の周知と専門職間におけるSANEの役割への示唆をお話したいと思います。